

令和4年度 新栄高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
① わいせつ・セクハラ行為の防止	絶対にあってはならない行為として、防止への徹底を図る。	不祥事防止研修会等において、これらの行為は、成生徒の将来に大きな影響を及ぼし、県民の信頼を失墜させてしまうことを再三唱え、職員全体の意識の向上を図った。
② 法令遵守意識の向上	公務外非行防止の注意及び倫理意識の徹底を図る。	啓発資料等により事例を紹介し、原因を各自が考えるなど、当事者意識をもって業務にあたることができた。
③ 体罰、不適切な指導の防止	生徒への影響を常に意識できるよう資質の向上を図る。	具体的な事例をもとに、適切な指導のあり方を、職員全体で共有した。その結果、生徒が部活動に取り組むことの大切さを職員が自覚し、不適切な事案は起こらなかった。
④ 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルに沿った適正な作成及び点検を徹底する。	成績処理支援システムによる成績処理や調査書発行などにおいて、マニュアルの確認、複数の点検を徹底した。管理職も点検に加わり、事故の防止を実践することできた。
⑤ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	定期試験に向けた環境整備を行い、注意を徹底する等、事故防止に努める。	試験一週間前に会議をなくし、作問・点検の環境に配慮した。また、試験後にシュレッダーを一定期間使用禁止にする等、個人情報記載文書や答案の紛失や誤廃棄等の防止を図り、事故の発生を防いだ。
⑥ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	プライベートを含めた交通法令 遵守への意識を高める。	職員室に飲酒運転防止に関する啓発ポスターを掲示したり、不祥事防止研修会や打合せ等の機会に、事例演習を行うなど交通法規の遵守への啓発を行い、交通違反や交通事故を防ぐことができた。
⑦ 業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	県民の信頼に応え、全体の奉仕者として自覚を持つ。	学年やグループ等において、各担当業務を複数で共有・確認するなど適正な業務を進めるとともに、各自が当事者意識をもって業務を行うように取り組んだ。
⑧ 会計事務等の適正執行	私費会計基準に基づき、会計の適正執行を徹底する。	会計の収支の際、伝票を精査し、会計ごとに指導を重ねるとともに、監査における指摘事項ことで、適正な会計執行を行うことができた。
⑨ 適切な入学者選抜の実施	事故のない入学者選抜に向け、適正な業務を実施する。	在県外国人等特別募集の対応を含め、入学者選抜業務における校内マニュアルを遵守し、課題に対応しながら、適切に行うことができた。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題

- ・校内から、絶対的わいせつ事案を出さないという目標のもと、不祥事防止の徹底を図れた。
- ・臨時的任用職員、会計年度任用職員にも指導を行い、学校全体で意識の向上を図れた。
- ・定期的に研修会を行い、様々な業務において、当事者意識をもって取り組んでいる。

〔課題〕

- ・研修会の進行をグループの持ち回りにするなど、より「自分ごと」として捉えさせる。
- ・絶対に不祥事を起こさない決意で業務に臨むよう、常に学校全体で意識を持たせる。